

以前から金剛山でカタクリの花を楽しめると聞いていたので、咲いている場所に詳しい藤井寺の大西先生（19回）に案内をお願いして行って来ました。



5月14日の日曜日にカタクリの花を求めて金剛山に登りました。カタクリの花の咲く時期は4月とのことでしたが日程が合わず5月に入ってしまいました。半分あきらめていたところ、2か所で綺麗な花が5本ずつも咲いていました（麓では葉っぱだけのものが沢山ありました）。薄紫の可憐なカタクリの花は魅力があります。花言葉は初恋、嫉妬、寂しさに耐える——なるほど。

金剛山は花、鳥の種類が非常に多い山としても知られていて、バードウォッチングの人々も結構おられました。金剛山を100回以上登っておられる方で作られている錬成会のイベントもあってか、登山客が多く、山の空気にひたって気分を晴れやかにされておられました。山頂では、立派な山桜が丁度満開で、お花見気分も味わえました。



金剛山山頂の葛城神社、転法輪寺は山岳修験道を起こした場所であり、役の行者がここで始めたとも言われています。葛城山（金剛山系には3峰あります）、岩湧山にかけて修験場の行場が16箇所あります。



山を下ってからまずは、千早赤阪村の建水分神社にお参りしました。ここは河内と大和の水争いの場所で、水越峠を越えて金剛山の北西面の谷の水を大和側の谷に落としているのですが、この辺りを平安時代末から治めていたのが楠氏です。戦前までは楠公さんのお宮さんとして多くの参拝者が参られていました（楠公：楠正成、太平記で後醍醐天皇のため活躍、忠君愛国の鏡として戦前までは崇拜、信仰の対象とされていました）。戦後は軍国主義でもてはやされたあおりをうけかえって地元の人以外はお参りに来られなくなっています。また明治天皇に尊ばれ建物も国宝の第1号であったそうですが、戦後は重要文化財ということになっています。南河内、特に千早赤阪周辺は楠公さんのゆかりの地で生誕所、砦跡、お墓、寺社（観心寺など）が沢山あります。このお宮さんの地元でも、だんじり祭りが盛んな（18台位集まります）のですが、青年たちが舞台の上で「俄か」をするというので取材にくる放送局も結構あります（この祭りが無形文化財の地区もあります）。



ちなみに江戸時代、明治になっても水争いが続き下流の金剛、葛城の麓は水不足で、稲作が出来ず木綿栽培（河内木綿として有名）で収入を得ざるをえなかったのです。



続いて河南町の弘川寺にお参りしました。ここは平安時代の鳥羽院の北面の武士で佐藤義清、のち西行法師となり、諸国をまわり歌を詠まれた方の終焉の地です。古今和歌集、

百人一首で有名な西行さんは、桜がお好きで、このお寺は桜が沢山植えられています。山桜、枝垂れ、他色々な桜があり、桜祭りも催されます。境内には、府の記念物のなっている海棠桜もあります。桜には遅かったのですが、新緑のもみじが見事で、西行堂も枯れた雰囲気の良いお堂でした。

そこから北に向かって、[聖徳太子の御陵のある叡福寺](#)に向かいました。3重の屋根のある不思議な祠の後ろに正八角形の御陵があり、陵の周囲が墓石で組まれていました。境内には華奢な感じの2重の塔が建っていて、しっとりとしたお寺です。[推古天皇陵](#)も近くにあります、続けて[小野妹子陵](#)も訪れて見ました。狭い道を通ってやっと車を止め（科長神社の駐車場）、そこから130段の階段か長めの回り道かで行って下さいと言われ、金剛山を上り下りした後なので、もちろん回り道をしました。直径百メートル位の小山の御陵でお花の池坊家の先祖らしく、専永さん？（字が読みにくかった）が建立された石碑があり、河内平野の眺めの良いところでもありました。



最後は、南河内を流れる石川の土手に、沢山の鯉のぼりが上がっているのを車窓から眺めてお別れとしました（かなり遠くからも沢山の鯉のぼりが送ってこられていて数十本の竹に5～7尾の鯉がつられていて圧巻でした）。

参加者は、19回大西、26回時実、18回瀧でした。

